

令和5年5月31日

中部圏広域地方計画協議会 幹事会

“世界ものづくり対流拠点-中部-”へ、着実に推進 ～中部圏広域地方計画「令和4年度の取組み」を公表～

中部圏広域地方計画は、暮らしやすさと歴史文化に彩られた“世界ものづくり対流拠点-中部-”を将来像に、5つの方針と10のプロジェクトを位置付けて実効性を高め、着実な推進を図るために、毎年度進捗状況をフォローアップしています。

今般、策定されてから7年目となった本計画について、中部圏広域地方計画協議会の構成機関が実施した「令和4年度の取組み」をとりまとめ、総数1240の取組みについて確認しました。今後も関係機関が協働・連携し、着実な推進ができるようにプロジェクトを進めていきます。

なお、現行計画の取組状況や中部圏広域地方計画有識者会議の議論を踏まえて、新たな中部圏広域地方計画について検討を進めます。

■中部圏広域地方計画の推進について 令和4年度の取組み

アドレス：https://www.cbr.mlit.go.jp/kokudokeisei/kouiki/keikaku_sintyoku_kanri.htm

■概要：別紙のとおり

【配布先】：中部地方整備局記者クラブ、東海交通研究会、名古屋港記者クラブ、長野県庁内会見場
岐阜県政記者クラブ、静岡県政記者クラブ、三重県政記者クラブ・三重第二県政記者クラブ、
静岡市政・経済記者会、浜松市政記者クラブ、名古屋市政記者クラブ

【問合せ先】：中部圏広域地方計画協議会 事務局（中部圏広域地方計画推進室）
国土交通省中部地方整備局

企画部 事業調整官 大島 常生（内線 3116）

広域計画課長 後藤 功次（内線 3211）

TEL052-953-8129（企画部広域計画課直通）

■ 中部圏広域地方計画の体系

将来像

暮らしやすさと歴史文化に彩られた
“世界ものづくり対流拠点-中部”

リーディングプロジェクト

(★: 中部・北陸圏広域連携プロジェクト)

基本方針1 世界最強・最先端のものづくりの進化

- 世界を先導、人材力・技術力・集積力、研究力、品質力のさらなる進化。
- 国内外から投資を呼び込む太平洋から日本海に至る広域産業クラスター。
- 中部・北陸圏、産学官民の連携強化。

1.ものづくり中部・世界最強化 プロジェクト

1-1ものづくり中枢圏形成

1-2 環太平洋・環日本海に拓く一大産業拠点形成 ★

基本方針2 スーパー・メガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引

- リニア効果を中部・北陸圏の広域に最大化する地域づくり。
- 中部圏の魅力を高め、東京一極集中是正と地方への人口還流、国際大交流時代を先導

2.リニア効果最大化対流促進 プロジェクト

3.新たな観光交流おもてなし プロジェクト

3-1広域観光交流圏の形成

3-2「昇龍道プロジェクト」の推進 ★

基本方針3 地域の個性と対流による地方創生

- コンパクト+ネットワーク。地域の個性・資源を磨き上げ、重層的対流を促進。
- 地域に活力を生み、就業が安定的に確保され、豊かさを実感できる社会構築。

4.中部圏創生暮らしやすさ実感 プロジェクト

5. 快適・安全安心な生活環境実現 プロジェクト

基本方針4 安全・安心で環境と共生した中部圏形成

- 南海トラフ地震など自然災害に備えた防災・減災対策。
- 環境共生(生物多様性、景観) 国土保全。国土基盤の戦略的メンテナンス、持続可能な中部圏構築。

6.中部・北陸圏強靱化 プロジェクト

6-1 南海トラフ地震など大規模自然災害への備え

6-2 太平洋・日本海2面活用型国土構築 ★

7.環境共生・国土保全 プロジェクト

8.インフラ戦略的維持管理 プロジェクト

基本方針5 人材育成と共助社会の形成

- 次代を担う人材の育成、ゆとりある生活環境を活かし、女性や高齢者をはじめ誰もが参画できる社会。
- 地域に愛着と憧れを持ち助け合う共助社会を実現。

9.すべての人が輝く「ひとづくり」プロジェクト

10.新たな「つながり」社会構築 プロジェクト

中部圏広域地方計画の進捗管理【令和4年度の取り組み】

基本方針1 世界最強・最先端のものづくりの進化

1.ものづくり中部・世界最強化プロジェクト（245件）

取組事例 ■ 自動運転の実証実験【愛知県】

■自動運転の実証実験について

- 社会実装に向けた取組を更に深化させ、交通事業者等が実運行で再現可能なビジネスモデルの構築を目指し、3地域で実証実験を行う。

○実施地域

- ・名古屋市（名駅南から栄南地区）
- ・常滑市（中部国際空港島及びその周辺地域）
- ・長久手市（愛・地球博記念公園）

■今後の予定・方向性

- 社会実装に向けては、国の目標である、2025年の「全国各地域での無人自動運転移動サービス」の実現に向けて、地域毎により適した車両、技術方式を採用した実証実験を行うとともに、法制度面や社会的受容性、事業面での社会実装を前提とした分析を推進する。



■自動運転車両イメージ
（左上）名古屋市
（右上）常滑市
（左下）長久手市

基本方針2 スーパー・メガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引

2.リニア効果最大化対流促進プロジェクト（25件）

取組事例 ■ リニアバレー構想に基づく取組（アジアの航空機システム拠点形成）【長野県】

- 飯田市の「エス・バード」を高度人材育成機能、研究開発機能、実証試験機能をもつ航空機システム産業振興拠点と位置付け、拠点マネージャーを配置

高度人材育成機能：信州大学航空機システム共同研究講座

研究開発機能：県工業技術総合センターサテライト機能

実証試験機能：環境試験体制整備（H28：着氷試験装置、

H29：防爆性試験評価装置、

H30：燃焼・耐火性試験装置、

R元：高速温度変化試験装置、

R2：振動試験装置）

「航空機システム産業振興拠点」
エス・バード（旧飯田工業高校）
3つの支援機関が集結



高度人材育成・研究
信州大学南信州・飯田サテライトキャンパス



3.新たな観光交流おもてなしプロジェクト（113件）

取組事例 ■ 岐阜県下呂市におけるサステナブルな観光振興コンテンツ造成事業【中部運輸局】（R4新規）

- ポスト・コロナ時代を見据え、オーバーツーリズム対策や観光資源の保全をはじめとした持続可能な観光地経営が求められており、併せて旅行者がサステナブルな観光を体験できるニーズも高まっているところである。本事業は、自然、文化、地域の生業といった我が国の豊富な地域資源を活用し、それらの持続可能性の向上に資するような維持・活用の仕組みを取り入れたコンテンツを造成することで、各地域での自立的・継続的な観光地域づくりを推進する。



■事業実施範囲



■専門家によるモニターツアーの様子
地元民家での馬瀬暮らし体験（旧馬瀬村）

基本方針3 地域の個性と対流による地方創生

4. 中部圏創生暮らしやすさ実感プロジェクト (210件)

取組事例 ■ 文化芸術を通じた交流促進と地域の魅力発信【岐阜県】 (R4新規)

- 岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体のほか、文楽（人形浄瑠璃）、獅子芝居といった地芝居保存団体が多数存在し、古くから伝わる演目や振付が今もなお大切に受け継がれ演じ続けられている。
- そのような中、「次世代の文化芸術の担い手を育成し、県民参加による新たな文化を創造するための拠点」、「障害者の文化芸術活動の拠点」をコンセプトとして、平成27年にリニューアルオープンした「ぎふ清流文化プラザ」において、幅広く文化振興事業を展開してきたところである。
- 特に、「地歌舞伎」は、コロナ禍が直撃する中でも、30を超える地歌舞伎保存団体との協働により、文化芸術の発信の拠点であるぎふ清流文化プラザにおいて、演目を順次披露する「清流の国ぎふ2020地歌舞伎勢揃い公演」を開催し、県民参加による魅力発信と次世代の担い手育成に取り組んできた。
- 今年度からはさらに、文楽（人形浄瑠璃）、獅子芝居も加え令和4年度、5年度と2か年に亘り、県の文化・芸術の発信拠点である「ぎふ清流文化プラザ」を舞台として、演目を披露する機会を創出し、「地芝居大国」の魅力を県内外に広く発信していく。



■ 地歌舞伎勢揃い公演の様子 (ぎふ清流文化プラザ)

- 今後の予定・方向性
- 地芝居等、伝統芸能の発表の場の創出を引き続き支援し、伝統芸能の保存・継承を図るとともに、令和6年度に開催の「清流の国ぎふ」文化祭2024（「第39回国民文化祭」「第24回全国障害者芸術・文化祭」）をこれまでの取組みの集大成と新たな創造の出発点とらえ、伝統文化等の本県が誇る地域資源やそれを支える県民の取組みを発信していくことで新たな交流を創出する。

5. 快適・安全安心な生活環境実現プロジェクト (57件)

取組事例 ■ 高齢者に対する効率的・効果的な交通事故対策の実施【愛知県】

- 高齢者に対する効率的・効果的な交通事故対策の実施
- 高齢者が、加齢に伴う身体機能の変化が行動に及ぼす影響を理解するため、ドライブシミュレータや歩行シミュレータ等を活用した参加・体験・実践型の交通安全教育に取り組んでいる。また、VRシミュレータによる安全運転支援機能の体験会を開催し、交通安全意識の向上を図っているほか、運転免許証を返納しやすい環境整備の促進、サポートカー限定免許制度の普及促進に取り組んでいる。（令和4年度の高齢者に対する交通安全教育の実施状況は10月末現在1,524回、61,732人）。



■ VRシミュレータを活用した安全運転支援機能の体験

- 今後の予定
- 令和3年中の交通事故死者数は117人で、このうち高齢者は74人と6割以上を占めていることや、今後も高齢者人口が増加することに鑑み、高齢者の交通事故抑止に資する交通安全教育を継続して推進する。

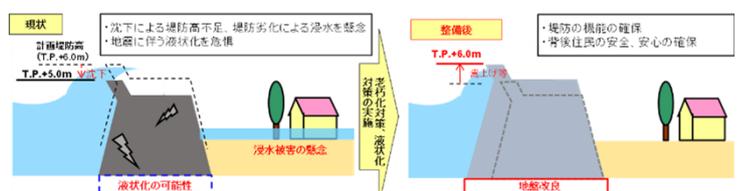
基本方針4 安全・安心で環境と共生した中部圏形成

6. 中部・北陸圏強靱化プロジェクト (145件)

取組事例 ■ 津松阪港海岸の堤防改良【中部地方整備局】

- 津松阪港海岸において、堤防の高上げ、老朽化対策及び液状化対策を実施。
- 効果や進捗
- 栗真町屋工区及び阿漕浦・御殿場工区に加え、平成30年度に追加した栗真工区の堤防改良を実施。
- 今後の予定・方向性
- 令和5年度中の事業完了に向け、全工区の堤防改良を実施。

■ 津松阪港海岸 堤防改良対象工区



7.環境共生・国土保全プロジェクト（139件）

取組事例 ■ 生物多様性の保全・再生普及啓発事業【岐阜県】（R4新規）

- 県民、企業、市町村、民間団体等の各主体が、それぞれの立場で生物多様性の保全について考え、行動に取り組む契機として、生物多様性シンポジウムを令和5年3月に開催した。
 - より多くの県民に生物多様性への関心を持ってもらうため、DX技術を活用した情報発信を開始した
 - 県が取り組む希少野生生物等の保護活動を教材とする出前講座、体験学習等により県民の学習の機会を随時提供した。
- 今後の予定・方向性
- 次期、「生物多様性ぎふ戦略」の改定時には、その内容の発信も加えて、県民への情報発信を強化する。



■希少野生生物に関する講座の様子：出前講座

8.インフラ戦略的維持管理プロジェクト（75件）

取組事例 ■ 建設技術実践プロジェクト事業（旧：自分たちでつくろうプロジェクト）【長野県】

- 地域の魅力ある現場で高校生が自ら計画立案し、自らの手で構造物等を造り上げることで、建設産業の魅力や実践的なものづくりの達成感を体感してもらうとともに技術力の向上を図るための学びと働きを連携させた取組。
- 効果や進捗
- 建設系学科のある4校で実施。
 - 河川敷のウォーキングロード整備や歩道の環境整備などを実施。
 - 高校教諭の声「土木工事の一連の作業の流れを実践で学び、ものづくりのおもしろさを感じられる機会になっている。」
 - 参加高校生の声「自分が関わって完成したものが残っていくことにやりがいを感じる。」
- 今後の予定・方向性
- 引き続き、産・官・学で連携して、継続的かつ効果的な取組を行い、建設産業への入職促進を図っていく。



■丁張



■路盤の締固め

基本方針5 人材育成と共助社会の形成

9.すべての人が輝く「ひとづくり」プロジェクト（125件）

取組事例 ■ 水福連携の拡大に向けたコーディネート人材の育成・活動支援【三重県】

- 県全域への水福連携の拡大に向け、漁業者と福祉事業所等のマッチングに取り組む専門人材として、水産業施設外就労コーディネーターを育成するため、令和4年8月から10月に、オンラインの座学講座と実地研修による水福連携におけるコーディネーター育成研修を開催。
- 今後の予定・方向性
- 育成した3名のコーディネーターについて、マッチング活動の支援を行い、障がい者の就労機会の拡大に取り組む。



■水福連携におけるコーディネーター育成研修（実地研修）

10.新たな「つながり」社会構築プロジェクト（106件）

取組事例 ■ 地域包括ケアシステムの構築【静岡市】

- 「静岡型地域包括ケアシステム」構築に向けた「自宅ですっと」在宅医療・介護連携推進事業、生活支援体制整備事業の推進を目的とした在宅医療冊子「よくわかる在宅医療&介護」を作成（R4：10,000部作成）し、市民や関係機関に向けて配付した。

■パンフレットの冊子

